

ものを見る目の確かさ と 感性の豊かさ

< 北野小5年生短歌 >

北野小学校長 丹羽 郁人

北野小5年生
武田翔夢史



北野小5年生が、短歌づくりに挑戦した。短歌は、五・七・五・七・七、三十一音で表現され、古く万葉の時代から多くの人々に愛され、親しまれてきた。

5年生が詠んだ短歌はどれも素敵だった。イラストを含めた作品づくりを、子供たちも楽しんでた。子供らしい着眼点に「**ものを見る目の確かさ**」を感じ、子供らしい受け取り方に「**感性の豊かさ**」を感じた。今回、その中で六首の歌を紹介したい。

「 冬休み こたつでござろ 最高だ ぼかぼかぐっすり あったかいなあ

5年3組 武田翔夢史 」

あったかいなあ。ぬくぬくしてるなあ。「ござろ」「ぼかぼか」「ぐっすり」など擬態語の使い方がいいね。

「 けんかして 相手からくる ごめんねが 心にずっと 残っている

5年3組 原田 珠里 」

「 フリースロー ドキドキしてて あせってる みんなの応援 私の勇氣

5年2組 沖 希奈 」

友達のあたたかさが伝わってくるね。「ごめんね」と言われた言葉は心に残るし、応援された言葉は勇気づけてくれるね。

「 まんがには ときどきわくわく たくさんの 人の心を 動かす言葉

5年1組 友利 心春 」

わかるなあ、まんがのよさ。そのまんがから、いろんなことを学んだんだね。

「 雨の日に カードゲームをさわる君 ひまな時間を やり過ごそうと

5年3組 鳥取 俊介 」

ただ、雨の日にトランプやUNOをやるだけの内容なのに、倒置法を使うことでプロ並みの作品にしあがる。

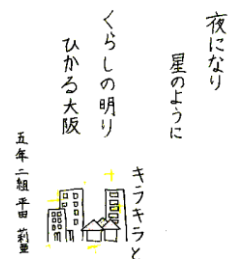
「 夜になり 星のように キラキラと

くらしの明かり ひかる大阪

5年2組 平田 莉亜 」

大阪に旅行に行ったんだろうか。夜になり、夜景を見ている。一つ一つの家の窓からもれる光を「くらしの明かり」と表現をした。情景が浮かぶ、大好きな短歌だ。

ここに紹介させていただいたのは、ほんの一部だ。すべての5年生の「ものを見る目の確かさ」や「感性の豊かさ」を、大いに感じる事ができた。



(2023・2・10)